2019年度（令和元年度）　草津市立新堂中学校通信　　Ｎｏ７（１１月　８日号）

しんどう中学校通信

～仲間とともに高めあい　豊かな学びと心を大切にする学校～

外国の人からみた日本の魅力

～ラグビー・ワールドカップ（W杯）を通して感じたこと～

１１月２日（土）にラグビーワールドカップ(W杯)日本大会が閉幕しました。私のようなルールさえあまり分かっていない“にわかラグビーファン”も含めて日本中が大いに盛り上がった大会であったように思います。日本チームのベスト８入りの活躍もその盛り上がりを後押ししたのだと思いますが、ラグビーW杯に関するニュースはいろいろなメディアに取り上げられました。そして、その内容を見ると単なるスポーツイベントの枠といったものを超えた大会であったと思っています。

試合が行われた競技場では、日本のラグビーファンが出場国の国歌を一生懸命歌ったり、相手の国やチームに対して敬意を払ったりする日本人に対して、来日された報道関係の記者からも称賛の声が数多く寄せられていました。試合が終われば敵味方はないというラグビーにおける「ノーサイドの精神」は有名ですが、外国チームの選手が試合後、声援を送ってくれたスタジアムのファンにむかって感謝の気持ちをこめて一列でお辞儀をする等は今までの大会では見られなかった行為で、W杯日本大会ならではの光景だと言われており、スポーツの枠を超えた「心の大切さ」を残した歴史的大会であったと言われる所以(ゆえん)でもあると言われています。

お辞儀のように相手への敬意を払うといった所作は、日本人としてはごく当たり前のように思っていますが、外国の人が高く評価されていることを知ると、素直に嬉しい気持ちになります。

新堂中学校は「特別の教科道徳」の研究指定を受け、学校全体でその充実に取り組んでおり、私自身「道徳という窓」からラグビーワールドカップを見ているところがありました。

中学校学習指導要録「特別の教科 道徳」の中では次のような記載があります。「世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って世界の平和と人類の発展に寄与すること。」「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重すること。」

ラグビーワールドカップ日本大会から私自身が感じたことは、道徳の授業の中で子どもたちに考えさせたいと思うことが多く、今回のW杯日本大会は「道徳の素晴らしい教材」でもあったと思っています。

校長　伊庭　靖二

中体連秋季大会の様子から。…10／18(金)～19(土)

午後から小雨が降ってくるようなあいにくの天候ではあったのですが、「秋季大会」は３年生が引退したあとの「新チーム」として初めての公式戦です。どの会場にも競技に集中している新中生の姿がありました。良い結果を出せた部活もありましたが、それぞれ課題も多く見つけられた大会であったと思います。それぞれの会場へ応援に駆けつけていただいた保護者のみなさん、ありがとうございました。

地域協働合校「体験学習」の様子から…10／30(水)

地域からたくさんの講師の先生をお招きし、全校の生徒全員がどこかの活動を体験させていただく地域協働合校「体験学習」。新堂中学校の伝統行事の一つになっています。今年も「囲碁」「太極拳」「フラダンス」「書道」「フラワーアレンジメント」「グラウンドゴルフ」等、生徒たちに貴重な体験をご指導していただき、ありがとうございました。